**平成30年度第2回岩国市環境審議会の結果について**

1. **会議名**

平成30年度第2回岩国市環境審議会

**2　開催日時**

　 平成30年10月2日（火）午後2時00分から午後3時35分

**3　開催場所**

　 岩国市役所２階　特別会議室

**４　出席した者の氏名**

　（委員）

　　藤野完二（会長）、嶋田陽生（副会長）

　　河本智勇、木村圭一、白木吉子、樋口隆哉、藤谷允子、松本哲郎、村元雅晴、森川裕子

　（事務局）

　　環境部長：藤村篤士、環境保全課　課長：中津朝実、環境対策班長：青木肇、環境対策班：山本剛史

　（担当部署等）

　　環境事業課　課長：山根正美、企画室長：藤井哲夫、企画室：荒川香与子

　　株式会社東和テクノロジー　望月俊彦、武田真爾

　（関連部署）

焼却施設建設事務所　所長：槙本新次郎、環境施設課　課長：穴水辰雄、　　　　　　　　　　　　　　下水道課　課長：蔵田敦、計画班：石井潔、都市排水施設課　課長：三國慎治

**５**　**議題**

１　岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について

　**６　公開・非公開の別**

公開

**７　傍聴人数**

0人

**８　会議内容概要**

　《審議等事項》

（1）岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について

（会　長）

　本日は委員12名のうち10名の出席を得ていますので、岩国市環境審議会条例第6条第2項の規定により本日の会議が成立していることをご報告いたします。会議の署名委員については嶋田委員、樋口委員にお願いします。

～担当課よりごみ組成調査結果の概要について説明～

（委　員）

　麻里布地区が選ばれているのは飲食店などがたくさんあるので調査したという解釈でよろしいでしょうか。（担当課）

　飲食店から排出されたものを取ってきているわけではないのですが、そういった地域から取ってみるという設定をしています。

（委　員）

　麻里布地区は飲食街があるので毎日収集しています。それも含まれているのでしょうか。

（担当課）

　今回の調査では麻里布地区の住居地域からの検体採取で飲食店からの採取はしておりません。

（委　員）

　他の市町では食品ロスが地球温暖化にも影響しているということで、かなり積極的な対策をしています。食品のロスなく、うまく回していくような活動をどう展開していくのかが、今後、重要になると思います。

（会　長）

　全体的にみて、焼却ごみ、プラスチックごみ、金属破砕ごみ、それぞれ適正排出がある程度良い方向に向かっているように受け取れるのですが、それでよいでしょうか。

（担当課）

　前回に比べて、良い結果になってきているとは思いますが、その中でもまだ削減すべきもの等がありますので、そのあたりを施策に反映させて取り組んでいかなければいけないと考えています。

（会　長）

　さきほどの発言にもあったように、これで見ると確かに岩国市で理解も増えてきていて進歩してきていると思いますが、他の自治体の動向と比較しなければ、本当にこれでよいか、満足しているかという問題が出てくると思います。可能な範囲で山口に限らず他の自治体がどういう方向にあり、その中で岩国はこうだというかたちで、われわれが判断できるようしていただければと思います。

～担当課よりアンケート調査結果の概要について説明～

（委　員）

食品ロスについて、地区ごとの飲食業協同組合のとりまとめである団体の総会に今年代理で出席したのですが、このような話は出ませんでした。

（担当課）

　そういった団体への働きかけも検討してみようと思います。後ほど連絡先等をお教えください。

（委　員）

地域の学習会や講演会については平成25年度5.9％が今回6.5％と上がってきました。これは市民の皆さんのイカルスや出前講座などに対する認知度が上がってきたということだと思います。しかし、中にはイカルスの存在すら知らない方もいるので、マスメディアや広報を活用していただく必要があると思います。

（担当課）

　わかりました。

（委　員）

　市民へのアンケート結果について、いくつかの項目で目標値が100％になっていますが、過去の経過から見てそれはさすがに厳しいかと思います。アンケート調査で100％達成というのは現実的ではないかと感じました。今回は以前からの継続ですのでこのままでいくのだと思いますが、将来的に考えたほうがよいかと思いました。

　質問の一つに「ごみの分け方はすべてわかる」というものがあり、選択肢は「すべてわかる」と「大体わかる」というものがあり、両方合わせたら95％くらいになっていると思います。これは答える人からすると「すべてわかる」と自信を持ってはなかなか言えないが、「大体わかる」という人が多いと思うのでそういう括りで集計してもよいのではと思います。それがその下の「ごみは10種20分別に分けて出している」という設問が95％近くになっていることに反映されているかと思います。取り組む意思を出来るだけ救うような選択肢の選び方、集計の仕方にすればより実態に近い結果で表現できると思います。

（委　員）

　先ほどの資料にありました、例えばプラスチック類の分別の誤りが多くなっていること、今回の資料の中で事業所アンケート内にある「機密文書が多く、リサイクルが難しい」、それに関連する設問「機密文書のリサイクルシステムがありますが、そのことを知っていますか」に対して知らないが52.4％など、その方法を知らないがため、分別できない・分別を誤ってしまうこととなっているよう見受けられます。事業所でも知らないことから、行動に移せないなどがあると思います。結局はわかっていないからということになると思います。そのあたりを市としてどのように啓発していくかが重要だと思います。

（会　長）

　今の話に関連しますが、市民方のアンケート結果の「故障したとき、できるだけ修理して使っている」が前回と比べて7.7ポイント減とありますが、今修理が非常に難しいです。自分で修理する場合は良いでしょうが、購入したところへ持っていってもひどく高い修理代を要求されたり、メーカーでないと修理できないと言われたりで、修理するという環境が整っていないという現実があります。洗濯機ひとつ取っても、地元の電気屋さんでは修理できません。リース・レンタルの項目も似たような話であり、どこへ行けばリース・レンタルができるのか、ネットを使える人はわかるかもしれませんが、高齢者になってくるとわかりにくいと思います。現実にリース・レンタルしてくれるところはありますが、どこへ行ったらよいかわからない。そのほかにも、再生資源を利用した商品がどこで買えるのか、どれが環境に優しい商品なのかがわからないのです。これらのポイント減の大きい3項目は、社会全体としてこれに関する情報が細やかでないのだという気がします。先ほどの委員の話と似てきますが、その辺の情報を整理して一般市民に分かるように情報提供していく工夫が今後必要なのかと感じます。これは市民側の感触としての意見として聞いていただければと思います。

（委　員）

　メーカーにとっては如何に買ってもらうかが大事です。我々がどう頑張ってもどうにもならない問題がそこにはあります。消費社会になった今、ごみが出るのは当たり前、無くそうという発想自体が無理な話ではあります。作って壊れたらまた買ってもらうというサイクルが壊れてしまうと社会が回らなくなる。そういったこともあるので環境問題というのはなかなか難しい。それでも何とか環境問題に取り組もうと皆で集まって試行錯誤していくことを今からも続けていかないといけないと思います。

（会　長）

　カレンダーの話が出ていたと思いますが、市民側の立場に立つと一番分別等の頼りになるものです。できればもっと使えるように工夫していただけるとよろしいと思います。日常の情報も書き込めるようなものなどあればよいですね。大変だとは思いますが、ごみの分別の情報を得るのは、カレンダーが一番有効だと思うので更なる充実をお願いしたいと思います。

（委　員）

　長年、自治会長をやっていますが、自治会の回覧との関係はどうなのですか。

（担当課）

　チラシを作成して全戸配布をお願いしたり、回覧板で班回覧をお願いしたりしてご協力いただいています。

　先般もリサイクルプラザで火災が起きているので、電池類に気をつけていただきたいというチラシの回覧をお願いしたところです。

（委　員）

　単身世帯に多いですが、カレンダーを配ったらすぐに捨てて、後になってうちには届いていないという人たちも結構多くいて困るところではあります。

（担当課）

　スマートフォンでもカレンダーを見ることが出来るものを作って、若い人への対応にも取り組んでいます。更にこのあたりの啓発も進めていきますので、ご理解いただければと思います。

～担当課より数値目標値の見直しについて説明～

（委　員）

　最終処分量の目標について、平成35年度をかなり少なめに設定されています。破砕ごみの不燃物が焼却に回るから見立てが減るという説明が以前あったかと思いますが、それプラス災害ごみの影響を上積みするとこれくらいの目標値になるということですか。

（担当課）

　新工場が出来たときに不燃物の残渣が焼却にまわることから、同程度下の数値設定も考えられますが、このたび岩国市も被災した中で災害廃棄物として1、2ヵ月の間にだいたい100ｔ近くの埋立ごみが発生したところです。そのあたりを考えて、今回被災程度の倍くらいのところを上乗せした設定にしています。

（委　員）

　直接搬入ごみでは、埋立ごみ（災害ごみ）を除くとして災害ごみの影響を除外するような目標設定になっていますが、災害による変動がかなり大きいようであれば、災害による直接持ち込みを除外した最終処分の値での設定が可能性として有り得るのでしょうか。通常のごみ処理で最終処分にまわる量がどれくらいかというのが住民生活の日常的な排出の状況になるかとは思います。

（担当課）

　最終処分量については災害ごみを含んだ目標値として設定しています。ご指摘にあったとおり、直接搬入ごみの目標値は、事業者に対する目標をわかりやすくするため事業者の排出でない基地ごみや災害ごみを除外しようという趣旨での設定としました。ただ、最終処分量の目標値については慎重に判断する必要があると思います。

（委　員）

　どちらかに揃えたらよいと思います。

（担当課）

　災害ごみについてはかなり量的なものをしっかりと把握し、実績を報告する際にはそれをしっかりと示して目標値との対比をするのか、改めて整理させていただければと思います。

（委　員）

　事後にある程度、量の把握が出来るのであれば、結果を説明する際にその点を補足しておけばよいかと思います。

（担当課）

　そういった方向で考え直してみます。

（委　員）

　リサイクル率について、なかなか伸びが大きくないので縮減したということですが、リサイクル率そのものの指標の意味合いがだんだん変わってきているような気がしています。例えば、資源となり得るようなものが減ってきていること、また、民間の収集拠点に出すようなものは算入されていませんよね。

（担当課）

　はい、現在数的な把握が出来ていないため加味されていません。新聞雑誌類については、今年度6月くらいから業者より店頭で回収しているものの量を把握できるようになったので、それを加えていけばかなり実態に近い値が拾えるようになっていくかと思っています。

（委　員）

　データでは表に出てこないような状況があると思いますので、単にリサイクル率の推移だけで比較するのも、注意しなければいけないと思っています。最初の議題で出た組成調査で得た適正排出の割合、そもそも出す時点できちんと指定の区分で出せているのかという値だとある程度資源化されるかどうか判断しやすいと思います。組成調査そのもので指標化するのは厳しいとは思いますが、何かそれにつながるようなこと、例えば、市の処理施設で選別しているようなものであれば不適物の割合がどうか、どれだけ本来混ざるべきものでないものが混ざっているか、出すべきものはまとまって出されているか、などがわかるかもしれません。そういった指標があればよいかと思いました。将来的な宿題でもよいと思いますが、何か別の表し方が出来ればよいかと思いますのでご検討ください。

（担当課）

　別の資料で、今回の組成調査を基にして焼却ごみの中に含まれる資源品等の紙類であれば6％、新聞・雑誌では16％の資源化がきちんと分別できれば、これだけごみが減るということを試算しています。こういったものをベースに分別不十分なものの一定割合が適正分別された場合に、25.4％というリサイクル率が達成できるものとしてお示ししているものです。根拠のない設定でないことをご理解ください。

（会　長）

　基地ごみと埋立ごみと災害ごみの取扱いは見直すということでよいですね。

（担当課）

　はい。

～担当課より後期計画期間において実施する施策について説明～

（委　員）

　出前講座の話に関して、市民活動カフェなどで他団体との交流があるのですが、みなさん非常によく活動されています。出前講座を活性化するには自分たちの単一の団体の行動だけでなく、他団体との交流会など活発に行って行かなければいけないと思っています。出前講座や食品ロスに関しては、市のほかの部署との連携も必要と思います。食推さんなど食品分野を積極的に扱っている団体もあるのでより一層交流を持って活性化していくとよいと思います。

また、先般、市民の皆さんからエコレシピを募集していいアイデアをいただき、食推さんにも話を持っていきました。地球温暖化の団体以外にも色々な団体の皆さんが連携して取り組めば、一歩も二歩も前進するものと思います。

（担当課）

　参考にさせていただきます。

（委　員）

　今までの取り組みでは、汚れたプラスチックは分別する、一般家庭で汚れを拭き取って、それでも落ちないものは洗って出しましょうとありましたが、なかなかうまくいかないところもありました。水道水で流せば水のロスになり海洋汚染の一因にもなります。新しくできるサンライズクリーンセンターでは、汚れたプラスチックの処理方法はどう考えているのでしょうか。

（担当課）

　収集運搬計画の施策2にある市民サービスの維持・向上の施策の追加に記述してありますとおり、容器の形状等から汚れを取り除くことが困難なプラスチック類に限り、焼却ごみに出せるように変更してみようと思っています。ごみカレンダーに示す（案）はこのようになっておりまして、マヨネーズの容器やレトルト食品の容器など洗っても汚れをとることが難しいものについては焼却ごみとして出すこともできるといった内容での作成を検討しています。

～担当課より計画の骨子（案）について説明～

（委　員）

　家庭ごみではなく、観光都市である岩国市では年間300万人ほど観光客が来ると言われていますが、観光客が出すごみは織り込まれているのですか。

（担当課）

　具体的に記載した箇所はありませんが、一般廃棄物として排出されるものについては計画の中で対応していくことになります。

（委　員）

　分別を含めてですか。

（担当課）

　はい。

（委　員）

　参考資料の委員意見について回答をいただいている中で気になることがあります。新規出店のディスカウントショップの指導が必要でマイバッグを認めていないように感じています。商工会議所や他の団体がそういう店舗には何らかのお願いをしていかないとこのマイバッグの90％以上のキープは難しくなると感じます。今他にもマイクロプラスチックの問題なども言われているので、少し突っ込んだ形をお願いしたいと思います。

（担当課）

　そういった店舗が複数あることは承知していますので、どこまでご協力いただけるかはわかりませんが依頼はしていこうと思います。

（会　長）

　以上で本日の審議は終了いたします。